

新年あけましておめでとうございます。

さて今年の子年です。西暦年を12で割って4が余る年が子の年となり、子年は通常閏年となるのだそうです。「子」は「孳」（し：「ふえる」の意味）で、新しい生命が種子の中に萌（きざ）し始める状態を表しているとされています。後に、覚え易くするために動物の鼠が割り当てられたようです。

ところでネズミと言えば鼠算を連想します。正月に、ネズミのつがいがあれば、子を12匹産む。そして親と合わせて14匹になる。このネズミは、二月に子ネズミがまた子を12匹ずつ産むため、親と合わせて98匹になる。この様に、月に一度ずつ、親も子も孫もひ孫も月々に12匹ずつ産む時、12ヶ月でどれくらいになるかという、276億8257万4402匹となるというのですが、生物個体数の増加は、産まれる子が死なない場合、ねずみ算と同様な結果を生じます。人口増加も同様に増え、必ず食糧難に陥ると論じた人がいます。しかしダーウィンは自然な生物世界では常に競争があり、それが進化を導くと論じました。実際の自然界では捕食者やその他の環境要因によって生まれた子の多くは死に、個体数はある程度の規模を維持すると考えられています。

いずれにしても子年は繁栄する年として期待されているようです。

さてNPO法人天かけるも設立10年を迎えました。定款にはいろいろのこと

を記載していますが、主たる事業は尾道市医師会方式の ICT 化に関わるものでした。face sheet が電子カルテとして利用出来ることを一昨年（平成 30 年度）埼玉で開催された老健学会で報告し、また昨年（令和元年度）は尾道市医師会の老健施設での認知症と生活習慣病との関連について分析してみました。亥年の内なる充実とは、face sheet は医療と介護を結ぶ電子カルテとして使えることに気付いたことだったのかもしれませんが。今年は医療介護連携の ICT 化が繁栄普及できる年であればと祈念しています。

今年が良い年でありますように願いつつ、新年のご挨拶を申し上げます。